

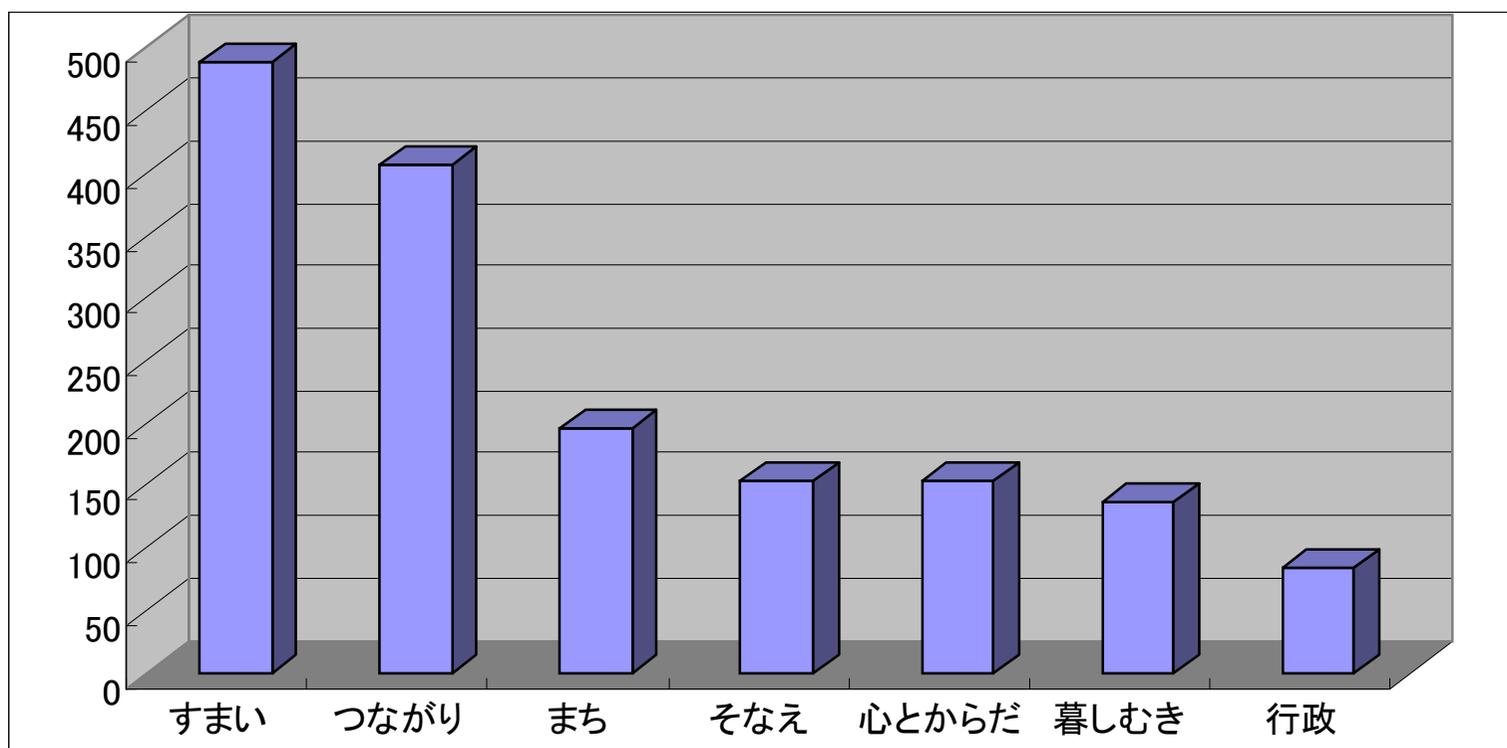
中央防災会議資料

- ・住民の目線での防災
- ・大都市での防災対策の方向性
- ・より良い暮らしの創造を目指した復興支援

重川希志依
平成13年6月28日

住民の目線での防災

阪神・淡路大震災から5年、被災者から見た暮らしの再建課題



阪神・淡路大震災で人的被害の原因となった住宅

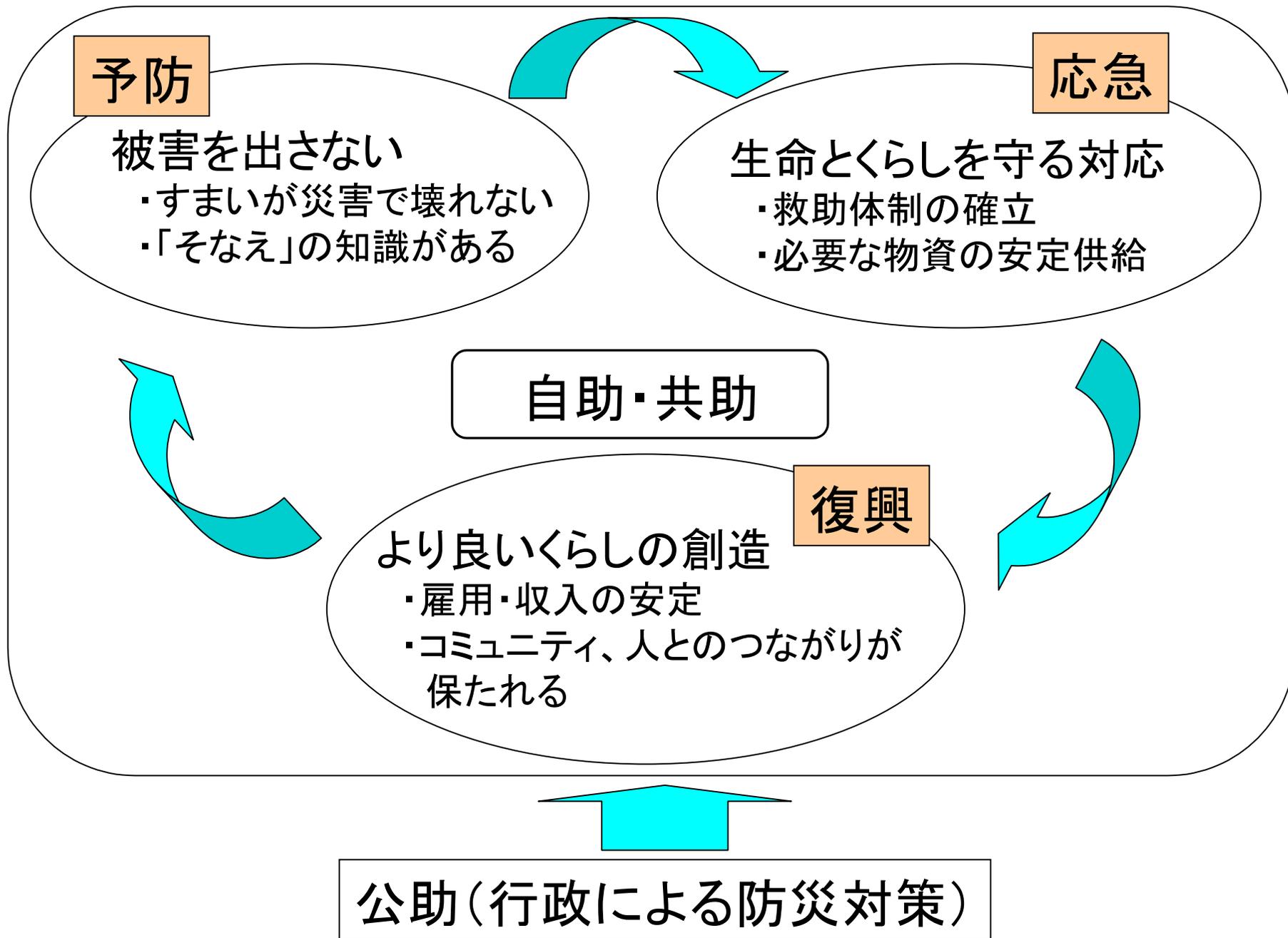
- 24万棟、44万世帯の住宅が全半壊
- 人的被害 5,500人の死者
 - 9割が自宅で発生
 - 96.3%が即死

生死を分けた地域コミュニティの存在

○数万人の生き埋め者を救出したのは主役の市民

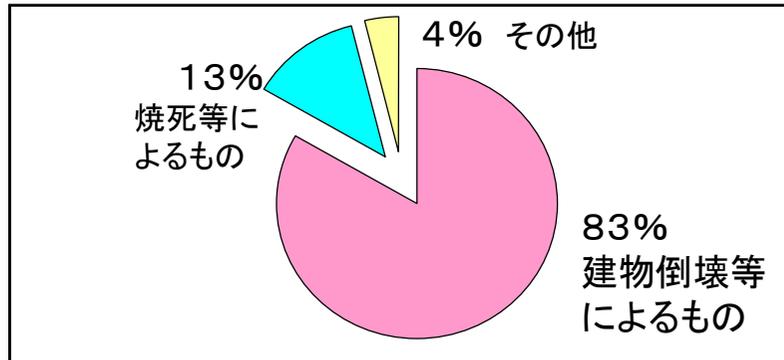
○自衛隊、消防、警察が救出した生存者は合わせて
5,000人

自衛隊	が救出した生存者	165人
消防（神戸市）が	〃	733人
消防団（神戸市）が	〃	819人



大都市での防災対策の方向性

阪神・淡路大震災の犠牲の
83%は建物倒壊が死因



関東大震災クラスの地震により、死者約15万人の被害想定

経済的に見ても、

阪神・淡路大震災では、

- ・被害額概算 約9兆6千億円
- ・関係予算経費 約5兆円

関東大震災クラスの地震により、

- ・建築物・施設被害100～160兆円、
 - ・経済活動被害105～165兆円
- (米リスクマネジメント・ソリューションズ社)

災害が起きても被害が出ない環境作りが最も重要、経済的
(災害に強い街づくり)

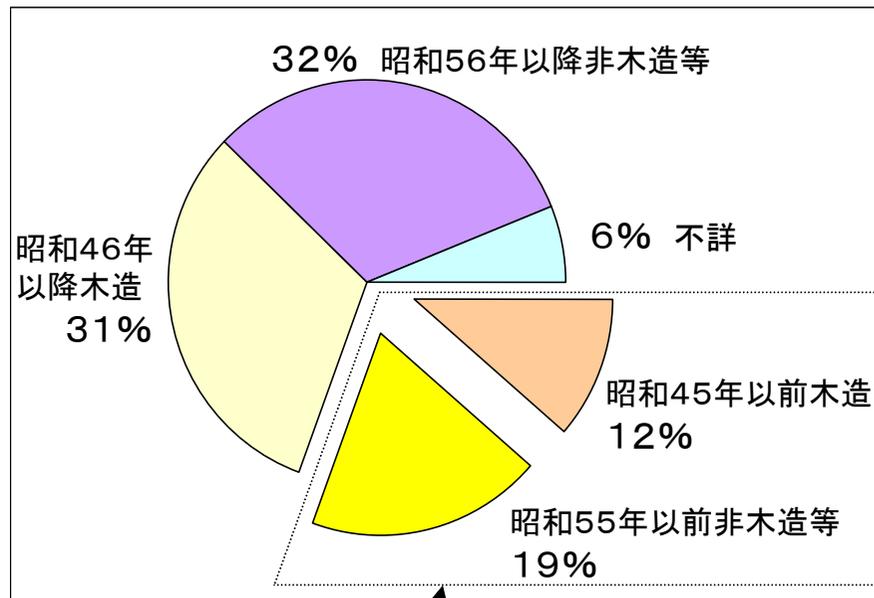
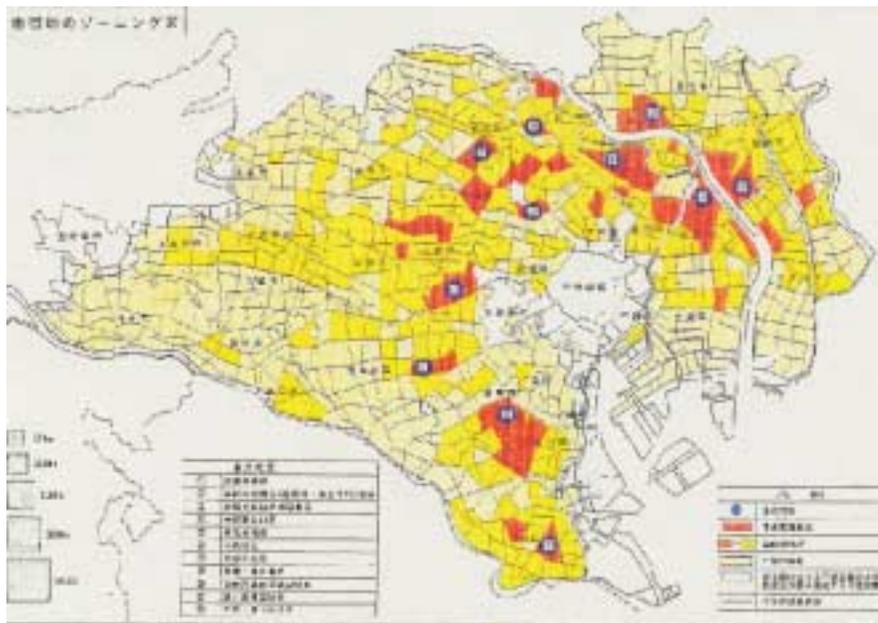
- ・木造密集地の改善
- ・建物、施設の耐震化 など

老朽住宅密集市街地等の現状(東京都)

老朽住宅密集地域

- ・全国で約25,000ha
- ・三大都市圏で約16,000ha
- ・東京都で6,000ha

東京都で、地震による倒壊の危険性の高い老朽住宅は約152万戸(31%)



倒壊の危険性の高い老朽住宅 約152万戸(31%)

より良い暮らしの創造を目指した復興支援

